

FH2Rの工事進捗状況をお知らせします

FH2Rでは、水素製造プラントの建屋工事を進めています。昨年12月に水素貯蔵施設の建設工事に着手しました。



この水素貯蔵施設は、水電解装置から供給される水素を圧縮、輸送用高圧容器に充填して一旦貯蔵し、需要に応じて供給先へ出荷する施設です。

施設には、貯蔵・輸送用として水素トレーラー（貯蔵量約3,000m³）を12台、水素カードル（中型の輸送用容器、貯蔵量約300m³）

を15台充填できるスペースが備えられていて、水素トレーラー1台で燃料電池車約50台分の水素を輸送することができます。

また、昨年9月から太陽光発電設備（ソーラーパネル）の設置を進めてきましたが、12月末までに、第Ⅰ期工事（発電量10MW相当分）35,420枚のパネル設置を完了しました。



引き続き、中間変電設備工事などを行い、今年3月末までに第Ⅰ期工事分が完成します。

残りの第Ⅱ期工事（発電量10MW相当分）は2020年3月末に完成予定で、水素プラントと併せて試運転を行い、同年7月までに本格運用を開始する予定です。

福島水素エネルギー研究フィールド整備事業に関するお問い合わせ

【事業主体者】国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）

【事業実施者】東芝エネルギーシステムズ(株)・東北電力(株)・岩谷産業(株)

(代表窓口) 東芝エネルギーシステムズ(株) 担当：山根

電話番号 044-331-7716 (代表)

(工事請負業者) 鹿島建設(株)、岩谷瓦斯(株)、旭化成エンジニアリング(株)

工事の実施にあたり、ご不便とご迷惑をお掛けしますが、ご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

発行：浪江町 産業振興課

電話番号 0240-34-0248

UR都市機構 浪江復興支援事務所

電話番号 0246-38-8044

平成31年2月1日発行 第3号

棚塩産業団地だより

浪江町棚塩産業団地の整備に関する情報をお届けします。



浪江町イメージアップキャラクター「うけどん」

復興大臣が現地視察に来られました



(左から 渡辺復興大臣、吉田町長、本間副町長)

昨年12月19日に、渡辺博道復興大臣が現地視察に訪れ、吉田町長から団地整備事業の進捗状況や福島水素エネルギー研究フィールド（FH2R）の概要などについて説明を受けられました。

渡辺大臣からは、東京オリンピック・パラリンピックでの水素の利用について、「この浪江の水素をえるように、しっかりと結び付けていきたい。」との発言がありました。

基盤整備工事の進捗状況をお知らせします

棚塩産業団地の基盤整備工事は、昨年4月15日に着工して以後、全体約49haのうちFH2R



(基盤整備工事(雨水排水管敷設)の状況)

事業等へ約19haの敷地の引渡しを終えています。

現在、残りの造成工事のほか、新設道路の地下に最大で直径2.4mの雨水排水管を埋設する工事など、団地内全域で工事を実施しています。

基盤整備に関するお問い合わせ

【事業主体者】浪江町 産業振興課 電話番号 0240-34-0248 (課代表)

【事業実施者】独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）

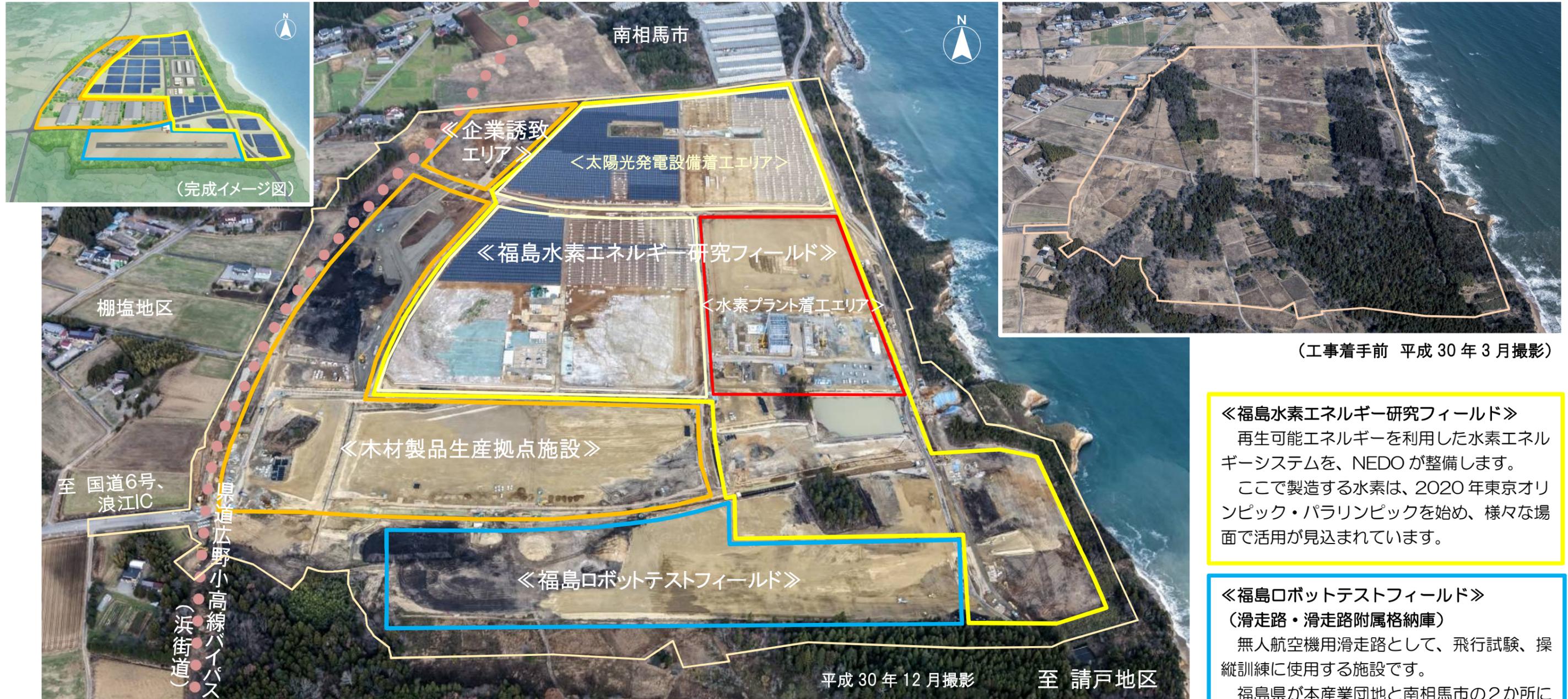
(工事発注者) 宮城・福島震災復興支援本部 福島復興支援部 浪江復興支援事務所

電話番号 0246-38-8044 (事務所代表)

(工事請負業者) 横山・鹿島 復旧・復興建設工事共同企業体(横山・鹿島JV)

棚塩産業団地の工事進捗状況をお知らせします

棚塩産業団地では、ドローン（無人航空機）を使って定期的に空から現場の状況を撮影しています。



(工事着手前 平成30年3月撮影)

《福島水素エネルギー研究フィールド》
再生可能エネルギーを利用した水素エネルギーシステムを、NEDOが整備します。
ここで製造する水素は、2020年東京オリンピック・パラリンピックを始め、様々な場面で活用が見込まれています。

《福島ロボットテストフィールド》
(滑走路・滑走路附属格納庫)
無人航空機用滑走路として、飛行試験、操縦訓練に使用する施設です。
福島県が本産業団地と南相馬市の2か所に滑走路を整備し、2019年度の開所を予定しています。

《企業誘致エリア》
イノベーション・コースト構想関連企業を誘致し、雇用創出を図るエリアを整備します。
エリアの一部において、木材製品生産拠点施設の整備を予定しています。

●東京オリンピック・パラリンピックでの水素利用

昨年12月に開催された、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会で環境対策などを協議する有識者会議で、聖火台や聖火リレーのトーチに水素などの再生可能エネルギーを採用すべきと決議がされました。

会議のなかでは、浪江町（FH2R）で製造された水素を使う案も意見として出されています。

●福島県内水素ステーション整備状況

県内では、現在、福島市と郡山市で移動式水素ステーションが運用されており、今年3月にはいわき市に東北で2例目となる商用定置式水素ステーションの開所が予定されているなど、県内での水素利用のための環境整備が着実に進められています。